

はじめに

日頃より、市民の皆様におかれましては、豊田市矢作川研究所の調査研究活動に、ご支援、ご指導、ご協力を頂き誠にありがとうございます。このたび所報「矢作川研究所」No22号をお届けすることになりました。ご一読いただければ幸いに思います。

さて、平成28年6月にめざす矢作川の将来像として「豊田市矢作川河川環境活性化プラン」を策定いたしました。その具体的な内容として、アユをはじめとする生物生息環境の活性化策や、流域住民の河川愛護活動の拡充による流域管理体制の強化策、そして川利用の促進を図る矢作緑地の有効的な利活用策など、市民活動や河川管理者が行う治水環境事業の提言を取りまとめました。

このような中、矢作川の河畔林では、1993年から水辺愛護会やNPO法人矢作川森林塾による伐竹や草刈りなどの環境保全活動が継続的に行われています。また、昨今では、トヨタ自動車㈱をはじめとする企業ボランティアによる竹林整備や、わくわく事業を活用した市民活動による竹林整備や散策路整備などが年間を通じて行われるようになりました。以前は、人々の暮らしと矢作川との間に距離が生まれ「川ばなれ」の状態となっていましたが、市民の矢作川への関心は、河川環境保全活動を通じて非常に高いものになってきています。研究所としても、このような素晴らしい活動が持続的に発展していきますよう、今後とも活動団体の皆様のご支援をさせて頂きたいと考えています。

また、お気づきの方もおられると思いますが、矢作川の河川環境は多くの問題を抱えています。河川流量は過去60年間で約25%も減少しています。また、中流域ではカワシオグサやオオカナダモが繁茂し、河床のアーマーコート化が進行し、天然アユをはじめとする在来生物の生息環境に大きな影響を与えています。研究所としても、この問題に対し、明確な対策を講じるまでには至りませんが、まずは現状をしっかりと捉え、次世代を担う子供たちに自然豊かな矢作川を引き継ぐため、河川管理者や関係機関と連携を図りつつ、課題解決に向けた調査研究を続けていきたいと考えています。引き続き多くの皆様の限りないご支援とご協力をお願いいたします。

平成30年1月

豊田市矢作川研究所 所長
中川 啓二